

水泳授業における民間等屋内プール活用の試行について

1 検証結果

①教育課程編制及び授業時間数について

【小学校】

水泳授業は年間30回（学年ごとに90分授業を年間5回）の実施であり、回数を考慮すると民間等屋内プールの場合でも教育課程の編成が可能である。また、移動時間が往復20分程度であれば、着替え等も含めて70分間の授業時間が確保できる。

【中学校】

水泳授業は年間72回から216回（学級ごとに50分授業を年間12回のため、学校規模によって回数が異なる。平均回数は144回）と非常に多くの回数を実施しており、回数を考慮すると民間等屋内プールの場合は教育課程の編成が難しい。また、移動時間が往復20分程度かかる場合、着替え等も含めて30分しか授業時間が確保できない。

②先進市ヒアリング・視察について

視察先：多摩市立大松台小学校（多摩市立温水プール（アクアブルー多摩）での授業）
結果：・泳力別グループで個々の実力に応じた指導のため、泳力向上が期待できる。
・プール施設の管理や技術指導が無く、教員の負担軽減につながっている。

③財政効果（試算）について

学校プールを建設・維持管理する場合と、民間等屋内プールを活用した場合のライフサイクルコストについて、建設から50年間のコストの比較をした。

その結果、プールを校庭に設置した場合は、小学校は50年間で約1,740万円の財政効果が見込めるが、中学校は逆に約2億8,890万円の持ち出しとなる。また、体育館屋上に設置した場合は、小学校は50年間で約9,740万円の財政効果が見込めるが、中学校は逆に約2億890万円の持ち出しとなる。

○1校当たりの経費比較（50年間のコスト比較）

学校	設置場所	学校プールの建設・維持管理	民間等屋内プールの活用*	差引財政効果額
小学校	校庭設置	258,300千円	240,900千円	17,400千円
	屋上設置	338,300千円		97,400千円
中学校	校庭設置	289,300千円	578,200千円	△288,900千円
	屋上設置	369,300千円		△208,900千円

※民間等屋内プールの活用の場合、実施回数は小学校30回、中学校144回（中学校平均回数）で積算

2 今後の方向性

○検証結果

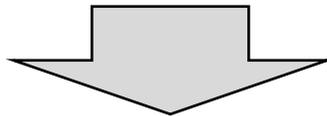
学校	実現可能性		財政効果
	教育課程編制	授業時間確保	
小学校	○	○	○
中学校	×	×	×

【小学校】

検証結果により、実現可能性があり財政効果が見込め、また、先進市のヒアリング・視察結果から効果も期待できる。

【中学校】

検証結果により、実現可能性が低く財政効果が見込めない。



○試行の実施（令和5年度）

学校	今後の方向性
小学校	<u>更に検証を進めるため、民間等屋内プールの活用を2校で試行する。</u>
中学校	<u>民間等屋内プールの活用を試行しない。</u>

3 試行の対象校

建替・改修工事が予定されている学校については、本格実施となった場合にはプール改修等が不要となることから、試行にあたっては建替・改修工事が予定されている学校のうち、学校規模や地域の違う以下の2校を対象校とする。

○対象校

学校	建替・改修工事予定	学校規模（児童数※）	地域
第二小学校	建替	中規模（443人）	曙町
大山小学校	中規模改修	小規模（248人）	上砂町

※児童数は令和4年5月1日現在